

今年から、選挙権年齢が十八歳以上に引き下げられ、選挙にかかわるのはまだまだ先のことだと思っていた私にも選挙権が与えられることになり、とても驚きました。選挙について全く知識が無いまま、夏の参議院選挙に行かなければならないと知り正直困りました。しかし、政治・経済の授業で主権者教育を受け、文化祭の時には歴史上の人物を用いての模擬選挙を体験しました。それぞれがどういった政策を立てているのかを理解したうえで投票してみて、実際の選挙もこのような感じで行われるのだなと思いました。また、主権者教育を受けたことによって、ニュースなどで選挙について流れていると以前よりは意識をして見るように心掛け始めました。

選挙の日が近くなるにつれて、テレビや新聞に選挙の課題が多く取り上げられるようになりました。今まで政治に興味がありませんでしたが、参加するからには、どういった政策を立てているのかを真剣にとらえないといけないと思い、その時初めて政治のニュースを身近に感じました。

それまでは、大人の世界の話だから関係ない、まだまだ先のことだと思っていましたが、実際に自分が十八歳になって思ったことは、選挙権においては自分はまだ大人と同じ扱いで、政治をきちんと理解している父や母と同じ一票を自分も与えられ、責任を感じました。しっかり政治について関心を持っておかないといけないということです。

投票日になり、初めて投票所に入って見て会場の雰囲気は学校の模擬投票とは違ってとても緊張感がありドキドキしました。いざ投票をしてみて、開票の数字に正直なところ、私が投票に行っても行かなくても、たった一票を入れるか入れないかの違いは、そこまで影響がないのでは、と思っていました。しかし、先日「まちの政治をみつめよう」という地域の方々との意見交換会に参加し、一票の大きさを知りました。私の一票は、確かに小さな力ですが、その小さな力が集結すると大きな力になります。だからこそ、私達十代が政治に興味関心を持ち、選挙にたくさん参加することによって、今後は若い世代も興味を持てるような政策を立ててもらえるようになります。そうすればまた若者の投票率もあがり相乗効果が期待できます。

前回の選挙の時に、選挙権があるのに投票をしに行かなかった人、よく分からないで投票してしまった人は、次の選挙では私たちが持っているこの一票の大きさを考え、必ず投票してほしいと思います。私自身、普段から政治に関心を持ち次の選挙にも絶対に参加しようと考えています。高校卒業後は進学しますが、友人と選挙の話ができるような人間関係を築きたいと思います。